

2020年6月17日

2020年3月期決算発表にあたり頂戴したご質問へのご回答

2020年4月27日（月）の当社2020年3月期決算発表に頂戴した主なご質問につきまして、下記のとおりご案内いたします。

Q1：新型コロナウイルスの影響で大手ゼネコンが工事を中断するなどしているが、当社への影響は
業界全体として、建設工事は中断すべきかまた継続すべきか、建設業従事者自身が判断しかねているのが実情です。なかにはすべての現場を強行的に中断する決定を下したところもあるようですが、多くは施主様との交渉が難航し中断できていないと伝え聞いております。

当社セグメントで言いますと、空調設備工事関連事業だけでなく住宅設備機器関連事業においても似たような状況にあるようで、特に竣工間近の物件については工事を中断すること自体が危険のため、手洗いうがい、マスク着用、ソーシャルディスタンスの確保をはじめとした感染対策の徹底や、従事者各々で働き方を工夫していただくなどで現場を進行させております。

一方でこれから着工に入るところにつきましては、お客様にご相談のうえ工事の延期や工事内容の見直しをおこない、いくつかの現場では着工延期を決定しております。夏頃にはこの状況も一段落しているのではないかという見込みや期待のもと建設スケジュールを引き直しておりますが、今年度の通期計画としては、新型コロナウイルスの影響はあまり大きくならないのではないかと考えております。

Q2：お取引先企業様・協力会社様への支援について、現在、どのくらいの申し出がきているか

お申し出はございましたが、具体的な件数についてはご回答を差し控えさせていただきます。

※2020年4月22日公表「新型コロナウイルスの影響に伴うお取引先企業様・協力会社様へのご支援について」

<https://www.mitani.co.jp/news/pdf/20200422.pdf>

Q3：「アビガン®錠」原薬製造受託について、製造量や受注金額、製造場所、受託に至った背景は

当社連結子会社であるアクティブファーマの富山八尾工場にて製造をおこないますが、製造数量や受注金額についてはご回答を差し控えさせていただきます。

受託に至った背景ですが、富士フィルム様よりご相談をいただいたことによります。「アビガン®錠」は富士フィルム富山化学様が製造・供給等を行います。日本政府の目指す備蓄量を早期に実現するには、複数の会社が協力しサプライチェーンを拡大することが必要であり、「アビガン®錠」原薬製造に必要な設備を有していると認められたアクティブファーマがそれに加わることとなりました。

今回の受託は、当社グループにとって最も重要な社会的使命の一つであると認識しており、製造現場の従業員の皆様には、誇りとやりがいをもって業務にあたっていただけることを期待しております。

※2020年4月27日公表「三谷産業グループで医薬品原薬製造を行うアクティブファーマ、『アビガン®錠』の原薬製造を受託決定

<https://www.mitani.co.jp/news/pdf/20200427.pdf>

※「アビガン®」は富士フィルム富山化学株式会社の登録商標です。

Q4：セグメント別売上で見ると化学品関連事業の割合が大きい（40.6%）が、セグメント全体における理想の比率というのはあるか

当社はかつて化学品事業が全売上高の半分以上を占めていたこともあり「化学専門商社」と言われる時代がありました。

しかし当社が「複合企業」としての存在感を高めていきたいと思ったときに、どの事業セグメントを重視していくか、またどのようなポートフォリオを構築していくかではなく、事業間のシナジーを模索し、また時代の変化や事業領域の変化に自社を最適化させていくことが、当社の今後のあるべき理想の姿なのではないかと考えております。

Q5：2019年3月に Fujitsu Computer Products of Vietnam, Inc.（FCV社）の持分のすべてを譲渡したとのことだが、譲渡先は

富士通様に譲渡いたしました。

当社樹脂・エレクトロニクス事業の強化を目的に、2017年に富士通様よりFCV社株式の50.001%を譲り受けました。FCV社を通じた富士通様との技術・人材両面での交流も順調に進み、当社内においてもユニットビジネスに対する知見を深められたなど一定の成果を得ることができました。

FCV社を富士通様にお戻ししたことで樹脂・エレクトロニクス事業の売上高は減少しましたが、同事業は引き続き堅調な成長を見せてくれております。

※2019年3月28日公表「ベトナム子会社の出資持分譲渡（子会社の異動）に関するお知らせ」

<https://www.mitani.co.jp/news/pdf/20190328.pdf>

Q6：今回、対面ではなくウェブ形式による決算説明会となったが、所感を聞かせてほしい

対面による決算説明会を開催したかったというのが正直な気持ちです。

FCV社を富士通様にお戻ししたことによる一部セグメントの減収がみられた一方で、営業利益および経常利益は過去最高を記録するなど好調な業績を残せたと思っておりますし、また来期の業績予想につきましても意欲的な数字をお伝えしたつもりですが、こうした私（社長：三谷忠照）からの熱量を伴ったご報告が皆様に伝わったかどうかは少し気にかけております。

Q7：2020年3月期は、情報システム事業や空調設備工事事業においてベンチャー企業との協働があったようだが、具体的には

ふたつあり、ひとつは福岡県北九州市に本社を置くクアンド様と共同で、建設業の業務効率化と人材不足という業界課題の解決に向けた次世代型コミュニケーションツール「SynQ（シンク）」の実証実験を行いました。

現場に赴くことなく遠隔での確認・指示を可能にするARビデオチャット機能は、現場事務所と施工現場を移動する機会を減少することで現場管理者の移動時間を削減でき、また会話を自動的にテキストで記録するグループチャット機能は、現場作業員のみならず施設のオーナーやユーザーを含む複数のステークホルダーとコミュニケーションの円滑化を向上することが期待できます。

※2020年2月12日公表「三谷産業とクアンド、建設業向けコミュニケーションツール「SynQ」の実証実験を実施」

<https://www.mitani.co.jp/news/pdf/20200212.pdf>

もうひとつは東京都台東区に本社を置くSE4様と共同で、建設現場における穿孔(せんこう)作業の効率化を図るロボット技術の開発に向けた実証実験を行い、ロボットの自動制御と人間の遠隔指示による正確な穿孔作業のための要素技術を開発いたしました。

建設業界において特に効率化・負荷低減が期待される作業の一つに、穿孔作業およびそこに必要な

マーキング（墨出し）という工程がございます。SE4の技術は、人間がVR空間を通じて複数のロボットや現場を管理、ロボットに対し様々な指示をまとめて送信し遠隔操作を行うため、作業効率を最大化することが期待できます。

※2020年2月14日公表「三谷産業とSE4、ロボットと人の協働による穿孔作業効率化のための要素技術を開発」

<https://www.mitani.co.jp/news/pdf/20200214.pdf>

建設業界における技術者や現場管理者の高齢化、人材不足、人間が行うには危険な作業などは、これらのような「建設テック」が発展していくことで、業務の効率性や安全性を担保した施工を実現すると考えております。

以上